

No. 28

Mar. 2010

“あ”はすべての原点、“そ”は蘇生。  
阿蘇は原点に返って復活する場所。  
素顔の阿蘇に触れ、  
自分自身を探してみませんか。

素顔の**阿蘇**を探す旅。

# 大陸

ASO Continent



ゆっくりのんびり  
阿蘇大陸



# 火山とともに生き続ける 阿蘇で地球を学ぶ

## 阿蘇ジオパーク誕生

平成21年10月、阿蘇に吉報がもたらされた。

世界ジオパークネットワークの一員である日本ジオパークネットワークによって、

阿蘇が『日本ジオパーク』の一つとして認定されたのだ。

自然を敬い、共存してきた長い歴史が宝として認められ、

阿蘇はまた一つ、新たなスタートを切った。

### ”地球を学ぶ”場所、 ジオパーク

ジオパークに認定されるためには、貴重で美しい地質遺産が多いというだけでなく、考古学や生態学的、また文化的な価値もなければならぬといった条件がある。中でも特筆すべきは、どんなにすばらしい地学的環境があっても、人が近づけないような場所は認定されないこ



阿蘇火山博物館  
池辺伸一郎 館長

と。地質遺産の確実な保護に加え、人が簡単に行けることで、地球科学や環境問題に対する学習の場となることも目的のひとつだ。

「今回の認定は、阿蘇が持

【日本ジオパークとは…  
「ジオ (Geo)」とは、「地球の」や「大地の」という意味。ジオパークは、「地球活動の遺産を主な見どころとする自然の中の公園」(日本ジオパーク委員会公式 HP より)で、2004年にユネスコの支援で設立された世界ジオパークネットワークが、現在、世界19カ国63カ所の『世界ジオパーク』を認定。『日本ジオパーク』は、日本ジオパークネットワークにより日本国内で11カ所が認定され、うち3カ所は『世界ジオパーク』にも認定されている。熊本県では阿蘇と天草の御所浦が、平成21年10月に認定を受けた。



噴煙を上げる中岳

つ貴重な地形や地質に加え、それらとともに築かれた人の生活、文化、歴史という素材があったから。阿蘇が持つそれらの価値は、世界レベルです」。こう語るのは、阿蘇火山博物館の池辺伸一郎館長である。阿蘇と同じような火山地域のジオパークの中には、噴火で被災した遺構を残しガイドする活動など、復興活動をテーマに認定された地域もあるという。「同じ火山地域でも、阿蘇の特徴はまず世界最大級のカルデラが

あること。その中で人々は、何気ない日常を送っている。火山を中心にした大自然に人の暮らしが溶け込んでいるところが阿蘇のすごいんです」

## 「地」を知ることは郷土愛にもつながる

阿蘇火山の研究を長年続けてきた阿蘇火山博物館の学術顧問である渡邊一徳熊本大学名誉教授は、池辺館長やほかの学術顧問らと阿蘇ジオパーク認定に向けて取り組んだ一人だ。2年前から設立準備として会議や勉強会を繰り返し、阿蘇火山博物館と（財）阿蘇地域振興デザインセンターを中心とした推進協議会立ち上げにも携



阿蘇火山博物館  
渡邊一徳 学術顧問

わった。「これまでの研究結果をもとに阿蘇の中で地質遺産となりうるジオサイト（※）のリストアップを、文化的背景など専門外の部分ではいろいろなおアドバイスを受けながら横山先生らと行いました」

主に保護を目的とした世界文化遺産と違い、地球・大地を中心据え、保護と活用両翼を合わせ持ったジオパークという概念はこれまでなかったと渡邊顧問。「大学では地質学を教えていましたが、一般的にあまりなじみのある学問ではありません。しかし地学というものは、その土地の風土や文化の



阿蘇火山博物館には、ジオサイトを説明したパネル展示がある。



阿蘇にあるマゼノ渓谷。川底は約9万年前の阿蘇火山の大規模な噴火による火砕流堆積物（溶結凝灰岩）

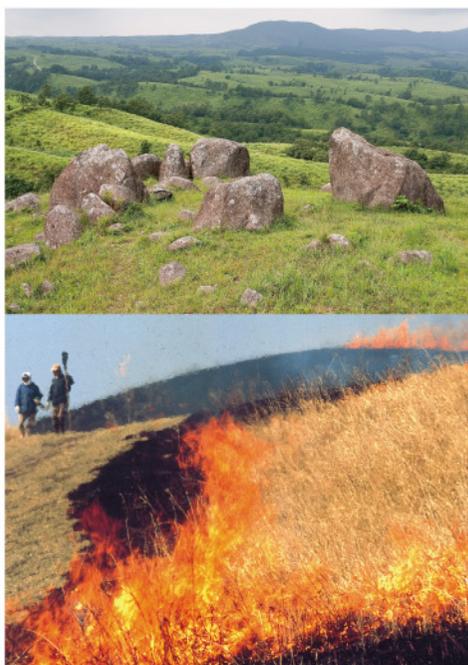
背景を知る上で大切です。自分の周りの自然を見る目が変わり、防災への認識も高まり、ひいては、郷土愛にもつながると考えています」。阿蘇の『日本ジオパーク』認定は、またとない地学教育のチャンスになると渡邊顧問は語る。

## 地球の息吹を感じるジオサイト

今回認定された阿蘇のジオパークは、カルデラとその周辺を含む広大な地域におよぶ。

「今までのところ、申請のためにリストアップした阿蘇の

※ジオサイトは、ジオパークの中にある希少な地形や地質を持つ場所のこと。



北阿蘇にある押戸石と草原。千年続く草原は、野焼きによって守られている。



火口から中岳、高岳山頂を歩くトレッキングコース。



阿蘇火山博物館  
横山勝三 学術顧問

ジオサイトは102件。これは暫定的で、今後増減するでしょう。こう語るのは、渡邊顧問とともに阿蘇ジオパーク認定へ取り組んだ阿蘇火山博物館学術顧問の横山勝三熊本

## Column.1

### 「阿蘇ジオパークシンポジウム」

平成21年10月の『日本ジオパークネットワーク』認定後の12月、エリア毎に3回に分けて開催され、各回とも100名前後が参加。阿蘇火山博物館学術顧問らによる講演の後、『日本ジオパーク』としての意識啓発や、次の『世界ジオパークネットワーク』認定に向けた取り組みについて意見交換が行われた。

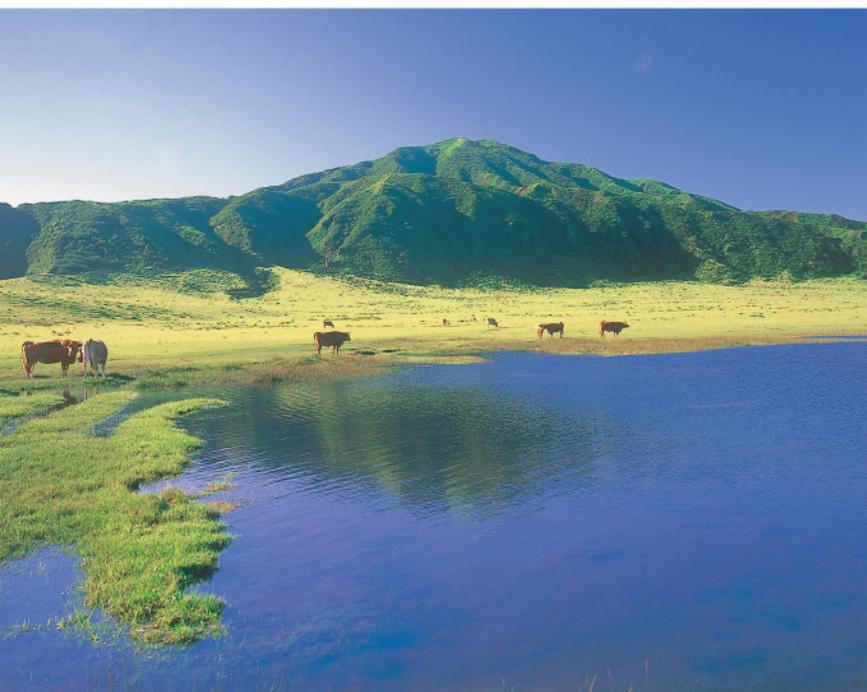


大学名誉教授である。平成21年12月、シンポジウムが3回に分けて開催された。北、南、中阿蘇の3エリアのうち、横山顧問は北阿蘇を担当。「12月のシンポジウムは、リストアップされたジオサイトを地域と確認しあうための場でもありました。ジオサイトは地域の方にとっては当たり前の見慣れた景色。ということとは、私たちが気付いていないけれど、地域の方が知っている貴重なジオサイトがほかにもきつと

あるということ。今後、それをたくさん地域から発信してもらいたいとシンポジウムでお願いしました。人が行くことができ、地球を知る教材となりうるのがジオパークの条件のひとつ。地球の息吹を感じられる場所であることが大事なんです。阿蘇にはそれがたくさんある。"世界一"ではないかもしれないが、それにこだわる必要もない。大切なのは正確に知り、理解を深めることです」



活発な活動を続ける中岳の火口の湯だまり。



なだらかな草原が広がる草千里ヶ浜は、観光客も立ち入ることができる。

## 中岳火口は“国宝級”

世界最大級のカルデラと中岳火口、米塚、草千里ヶ浜。ほかに、北エリアの押戸ノ石、南エリアの蘇陽峡など、阿蘇は貴重なジオサイトに事欠かない。また、たとえば阿蘇くまもと空港は、西原

村にある独立した火山である大峰火山の噴火により流れ出した溶岩がつくった台地にある。平らだから空港にぴったりだったのだ。阿蘇山頂へ続く県道からはるか下方に見える空港も、そんな知識を持つて見ると興味深い。阿蘇火山博物館の学術顧

## 「ジオツアー研究会」

阿蘇地域にある多彩なジオサイトを活用し、ストーリー性のあるジオツアーをプログラムすることと、質の高いガイドの育成を目的に開催。



### 平成21年10月27日開催の北外輪コース

ペトログラフ(古代文字)の残る巨石群がある押戸石や、紅葉に染まったマゼノ溪谷を歩き、希少な地質や景観を見学。ガイドの育成が急務であることなどが話し合われた。



### 平成21年11月27日開催の南外輪コース

ブナの原生林など国指定天然記念物の自然林と山野草が生育するコースを歩き、ジオサイトとしての認識を深め、案内するガイドの学習の必要性などが話し合われた。



### 平成21年12月15日開催の中央火口丘コース

過去の度重なる噴火による地層や火山岩、火山荒原に特有の植物などがある、ジオツアーの核となるコースであり、ガイドのスキルアップの必要性などが話し合われた。



カルデラを囲む外輪山の一部。



阿蘇火山博物館  
須藤靖明 学術顧問

問、須藤靖明理学博士は、「数多いジオサイトの中でも、火口の湯だまりは、”国宝級”と言つていいと思います。まずは、人がたやすく近づけることがすごい。そして、湯だまりの現象そのものが貴重です」。

湯だまりの湯は、地下水や雨水がわずかな、マグマが生む”純粋な”温泉であり、噴火して湯がなくなっても1〜2年でまたできる。ガスが少ない時の短時間だけコバルトブルーになり多量のガスが出て強酸性になると岩石中の物質が溶け出してエメラルドグリーンに。そしてさらにガスの噴出が強くなると白濁する。火山活動が色に表れるのだ。「米塚も、実は形成には、おそらく1週間か、長くても1ヶ月程度しかかかっていないんです。短時間でなければ、あんなふうにきれいな形にはなりません」。

「美しい景色を見る感動に、時間という縦軸を加えてさらに興味深いものにする。今後、そういうジオパークの活動ができるといいですね」。須藤顧問の言葉に、池辺館長がうなずく。「先生方の

次は、『世界ジオパーク』認定へ

「噴火して、見る間に美しい山ができていく。それを見ていた古代人は、どんな感想を持ったのだろうか」と須藤顧問は目を輝かせる。



均整の取れた美しさを見せる米塚。約 2千～2千5百年前の噴火で形成。

### Column.3

#### 先人が守り続けた宝を後世へ



阿蘇ジオパーク推進協議会  
会長 佐藤義興(阿蘇市長)

阿蘇はその昔、中国までその名をとどろかせた神聖な山です。人々は、火を噴く山を畏れ敬い、自然と共存しながら阿蘇の伝統、文化、歴史を築いてきました。このたびの日本ジオパーク認定は、先人たちが守り続けてきた宝を後世に大切に引き継いでいこうとする阿蘇にとって、多くの共鳴を生むきっかけになると思っています。今後は、“世界の阿蘇”という大きな視点で、世界ジオパーク認定や世界文化遺産登録を目指し、地域が力を合わせ、焦らずじっくりと阿蘇の宝を丁寧に磨いていきたいと考えています。

#### 阿蘇の自然を守る『阿蘇市 ASO 環境共生基金』

カルデラや草原、豊かな水、希少な植物。阿蘇には、日本はもとより世界に誇る自然が残されています。その環境を維持・保全し後世へ伝えていくため、皆さまの支援をお願いいたします。詳しくは、<http://www.city.aso.kumamoto.jp/asokikin/> をご覧ください。

頭の中には、驚くような知識がたくさん入っているんですよ。その知識と教育や観光との接点をもっと作っていただくのも、博物館の役割だと思っています」。子ども時代

の自然に対する興味が大人になって甦る。阿蘇ジオパークがそのきっかけになればうれしいと池辺館長。「ジオパークは、認定後4年で審査を受けられないといけないんです。運営がうまく行っていないか、ステップアップできていなければ認定を取り消されます。今後はしっかりと

とした運営母体を作り、質の高いガイドの育成や分かりやすい案内看板などの整備も進めないとはいけません」。平成23年3月の九州新幹線鹿児島ルートの新線開業とともに『阿蘇カルデラツーリズム博覧会』(愛称・阿蘇

ゆるっと博)が開催される。火山を中心に形づくられてきた阿蘇の魅力をもっともっと発信し、次は『世界ジオパークネットワーク』認定へ。その取り組みは、もう始まっている。

# 阿蘇ジオパーク推進協議会は、 「世界の阿蘇」となるべく活動しています

平成21年10月に「日本ジオパークネットワーク」に認定された阿蘇。今後は、世界ジオパークネットワーク認定や世界文化遺産登録へ向けて、ますます活発な活動を行います。

## 日本ジオパークネットワーク加盟状況

日本ジオパークネットワークには、現在11の地域が認定。日本ジオパークネットワークのうち、世界ジオパークネットワークに3カ所認定されています。阿蘇ジオパークは今後、阿蘇カルデラツーリズムの推進に加えたジオパーク推進の理念のもと、阿蘇地域の自然や文化の調査研究・教育啓発・情報発信、また自然保護などの事業を行っていきます。

### 世界ジオパーク会員

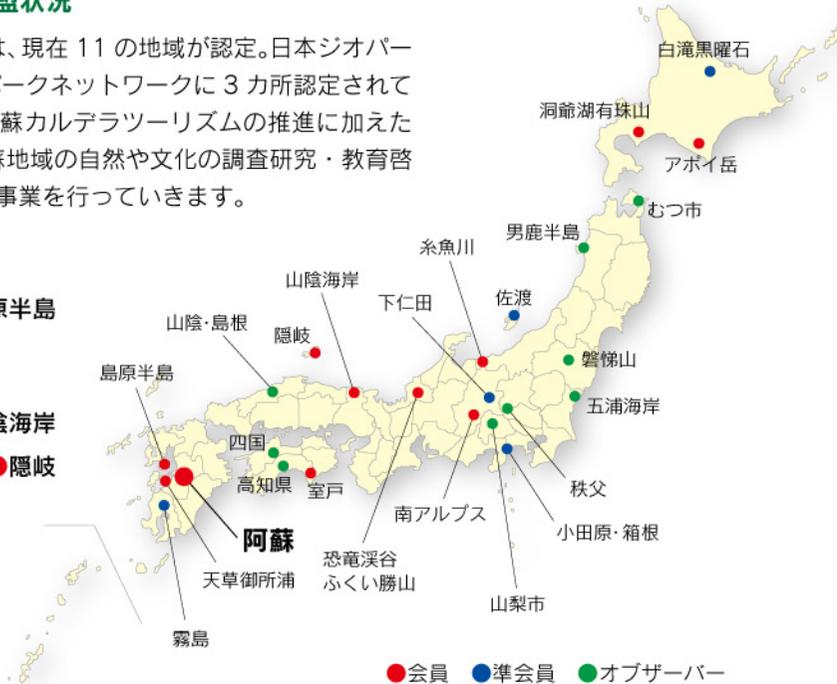
- 洞爺湖有珠山 ● 糸魚川 ● 島原半島

### 日本ジオパーク会員

- アポイ岳 ● 南アルプス ● 山陰海岸
- 室戸 ● 恐竜渓谷ふくい勝山 ● 隠岐
- 阿蘇 ● 天草御所浦

### 日本ジオパーク準会員

- 白滝黒曜石 ● 佐渡 ● 下仁田
- 小田原・箱根 ● 霧島



## 阿蘇ジオパーク推進協議会構成メンバー

行政/熊本県・阿蘇市・南小国町・小国町・産山村・高森町・南阿蘇村・西原村・山都町

教育/阿蘇エコツーリズム協会・国立阿蘇青少年交流の家・ASO 田園空間博物館・阿蘇ミュージアム・なみの高原やすらぎ交流館  
 阿蘇自然案内人協会・阿蘇たにびと博物館・阿蘇地区パークボランティアの会

観光/阿蘇市観光協会・南小国町観光協会・小国ツーリズム協会・産山村観光協会・高森町観光協会・南阿蘇村観光協会・山都町観光協会

研究/阿蘇火山博物館・熊本大学・京都大学火山研究センター・熊本地学会・熊本県地質調査業協会

環境/阿蘇の自然を愛護する会・自然公園財団阿蘇支部・阿蘇グリーンストック・阿蘇地域振興デザインセンター

顧問/渡邊一徳氏・横山勝三氏・須藤靖明氏・環境省九州地方環境事務所

阿蘇ジオパーク推進協議会 事務局 財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター内 TEL: 0967-22-4801 FAX: 0967-22-4802

(財)阿蘇地域振興デザインセンターホームページ <http://www.asodc.or.jp>

阿蘇の魅力を動画で配信!「阿蘇テレビ」 <http://www.aso-tv.com/>

阿蘇広域観光サイト「阿蘇ファンクラブ」 <http://www.asofan.net/>



週末のお出かけはこれで決まり! ラジオ番組「ゆっくりのんびり ASO 大陸」(エフエム熊本) 毎週土曜日 12:30~13:00